

※授業の1単位時間は45分とする

科目名	舞台機構調整Ⅰ	英文名	Stage StructureⅠ					1-1
担当者	渡辺 悟		実務経験の有無	有	選択必修	必修	科目区分	専門科目 講義
開講期	前期	前期：4時間（回数：15回）	後期：0時間（回数：0回）				授業時数	60 時間
教材 教具	プロ音響データブック（5訂版）/舞台音響技能検定 過去問題ナビゲーション舞台機構調整技能士3級/プリント							
担当者の 実務経験	音響及びホール管理業務（音響）							
【学修内容】科目のねらい（目的） 「舞台機構調整技能士検定」に向けた音響理論を基礎から学ぶ。また「判断等試験（ヒヤリング）」の対策として、楽器音の習得、音質の違いの聞き分け、ミックスバランスの聞き分け等を行う。								
【授業計画】 コマシラバス（前 期）				コマシラバス（後 期）				
1	4/17 舞台機構調整技能士試験の概要 技能検定の意義と取り組みについて			1				
2	4/24 判断：楽器の種類とグループについて 令和3年度舞台機構調整技能士3級学科過去問題と解説			2				
3	5/8 判断：金管楽器の仕組みと音について 令和2年度舞台機構調整技能士3級学科過去問題と解説			3				
4	5/15 判断：木管楽器の仕組みと音について 平成31年度舞台機構調整技能士3級学科過去問題と解説			4				
5	5/22 判断：擦弦楽器の仕組みと音について 平成30年度舞台機構調整技能士3級学科過去問題と解説			5				
6	5/29 判断：鍵盤楽器の仕組みと音について 平成29年度舞台機構調整技能士3級学科過去問題と解説			6				
7	6/5 判断：打楽器の仕組みと音について 平成28・27年度舞台機構調整技能士3級学科過去問題と解説			7				
8	6/12 判断：和楽器の種類と音について 平成26・25年度舞台機構調整技能士3級学科過去問題と解説			8				
9	6/19 判断：音量の違いと感覚について① 平成24・23年度舞台機構調整技能士3級学科過去問題と解説			9				
10	6/26 判断：音量の違いと感覚について② 平成22・21年度舞台機構調整技能士3級学科過去問題と解説			10				
11	7/3 判断：音質の違いと感覚について① 平成20・19年度舞台機構調整技能士3級学科過去問題と解説			11				
12	7/10 判断：音質の違いについて②低音・中音・高音			12				
13	7/17 判断：音質の違いについて③歪み・ピッチの変化など			13				
14	9/4 判断：ヒヤリングの模擬試験の実施			14				
15	9/11 前期まとめ / 前期期末試験			15				
授業方法 （授業の進め方）		授業は講義形式で行う。要素に関しては音と映像の流せる環境において行う。実際に音を聞きながら、判別できる能力をもてるように、繰り返し問題を解いていく。						
到達目標		舞台機構調整技能士3級合格、合わせて舞台・音響・照明の現場で活用できる基礎知識を身につける。						
成績評価の方法と基準		・定期考査試験：60％ ・出席率：20％ ・授業に取り組む姿勢：20％ 以上3項目を合計し、評価点を100点法で算出し、60点以上を認定とする。						
授業時間以外に必要な学修		「判断等試験（ヒヤリング）」においては日ごろから如何にいろいろな音を聞いているのかが理解に大きく関わるのでいろいろなジャンルの曲を聞いて欲しい。						
履修に当たっての留意点								

※授業の1単位時間は45分とする

科目名	電気工事士（学科）	英文名	Electrician（theoretical）					1-2
担当者	秋山 俊朗	実務経験の有無	有	選択必修	必修	科目区分	専門科目講義	
開講期	前期	前期： 8 時間（回数：15 回）	後期： 0 時間（回数： 0 回）			授業時数	120 時間	
教材 教具	ポイントスタディ方式による第二種電気工事士筆記試験受験テキスト、 第二種電気工事士筆記試験模範解答集、第二種電気工事士技能試験公表問題の合格解答							
担当者の実務経験	電設資材卸販売会社（営業）3 年 5 ヶ月、電気工事会社（施工及び施工管理）3 年 7 ヶ月 県立工業高等学校（電気科教諭）33 年							
【学修内容】科目のねらい（目的） 第二種電気工事士の筆記試験と技能試験に合格する為に必要な基礎知識を習得する。								
【授業計画】 コマシラバス（前 期）				コマシラバス（後 期）				
1	〔電気理論〕 オームの法則、電気抵抗の計算、抵抗の分流と分圧		1					
2	〔電気理論〕 単相交流回路、位相差と力率、電力の計算、三相交流回路		2					
3	〔配電理論〕 配電方式、配電線の電圧降下、分岐回路の施設		3					
4	〔配線設計〕 需要と負荷、電線の許容電流、過電流遮断器、分岐回路		4					
5	〔電気機器〕 三相誘導電動機、変圧器と計器用変成器、照明器具とスイッチ		5					
6	〔配線材料〕 開閉器・点滅器・接統器、絶縁電線、ケーブル・コード		6					
7	〔工具・材料〕 電気工事用工具、金属管・合成樹脂管・PF管工事用材料		7					
8	前期中間試験、〔施工法〕 施設場所と工事種別、電線の接統法		8					
9	〔検査〕 検査方法、絶縁抵抗・接地抵抗・電力・力率の測定		9					
10	〔法令〕 電気工事士法、電気事業法、電気設備技術基準、電気用品安全法		10					
11	〔配線図〕 屋内配線図記号、単線図と複線図、材料等選別		11					
12	第二種電気工事士筆記試験の答練と解説		12					
13	第二種電気工事士筆記試験の答練と解説		13					
14	第二種電気工事士筆記試験の答練と解説		14					
15	第二種電気工事士筆記試験の答練と解説 / 前期期末試験		15					
授業方法 （授業の進め方）	第二種電気工事士筆記試験の受験対策として、各テキストを用いて講義形式で学習を進める。また、過去問題の答練と解説を行う。							
到達目標	第二種電気工事士(下期)の筆記試験に合格する。							
成績評価の方法と基準	・ 定期考查試験：60％ ・ 出席率：20％ ・ 授業に取り組む姿勢：20％ 以上3項目を合計し、評価点を100点法で算出し、60点以上を認定とする。							
授業時間以外に必要な学修	学習内容が非常に多いので、次の項目については自宅学習を積極的に行うこと。 各種回路の計算。図記号・鑑別・法令で定められた数値等の記憶。過去問題の答練。							
履修に当たっての留意点	電気工事士筆記試験の合格を目指して、学習に積極的に取り組むこと。 欠席しないようにし、授業態度にも十分気を付けること。							

※授業の1単位時間は45分とする

科目名	ポストプロダクション・著作権	英文名	Post-production・copyright					2-1	
担当者	源 文彰		実務経験の有無	有	選択必修	必修	科目区分	専門科目 講義	
開講期	通年	前期：2 時間（回数：15 回）		後期：4 時間（回数：7.5 回）			授業時数	60 時間	
教材 教具	JPPA 映像音響処理技術者資格認定試験 試験問題集 2025 年度版、 ビジネス著作権検定®公式テキスト[初級・上級] 第 3 版、プリント								
担当者の実務経験	映像制作会社にて撮影、編集業務及びディレクター								
【学修内容】科目のねらい（目的） 映像音響業界で必要な映像編集及び著作権について理解する。 映像音響処理技術者認定試験、ビジネス著作権検定の取得を目的とする。									
【授業計画】 コマシラバス（前 期）				コマシラバス（後 期）					
1	映像音響処理技術者認定試験対策（技術）			1	ビジネス著作権検定対策（権利の種類）				
2	映像音響処理技術者認定試験対策（技術）			3	ビジネス著作権検定対策（映画の著作物）				
3	映像音響処理技術者認定試験対策（映像）			5	ビジネス著作権検定対策（制限）				
4	映像音響処理技術者認定試験対策（映像）			7	ビジネス著作権検定対策（保護期間）				
5	映像音響処理技術者認定試験対策（音響）			9	ビジネス著作権検定対策（譲渡）				
6	映像音響処理技術者認定試験対策（音響）			11	ビジネス著作権検定対策（著作物の利用）				
7	映像音響処理技術者認定試験対策（デジタルメディア）			13	ビジネス著作権検定対策（著作隣接権）				
8	映像音響処理技術者認定試験対策（デジタルメディア）			15	学年末試験				
9	映像音響処理技術者認定試験対策（著作権）								
10	ビジネス著作権検定対策（目的・定義）								
11	ビジネス著作権検定対策（著作物の種類）								
12	ビジネス著作権検定対策（著作者人格権）								
13	ビジネス著作権検定対策（著作者人格権）								
14	ビジネス著作権検定対策（著作財産権）								
15	ビジネス著作権検定対策（著作財産権）/ 前期期末試験								
授業方法 （授業の進め方）		授業は映像音響処理技術者認定試験問題集（前期）とビジネス著作権検定（後期）を中心に、過去問題等を多く取り入れながら行う。							
到達目標		各検定試験に合格すること。							
成績評価の方法と基準		・定期考査試験：60％ ・出席率：20％ ・授業に取り組む姿勢：20％ 以上 3 項目を合計し、評価点を 100 点法で算出し、60 点以上を認定とする。							
授業時間以外に必要な学修		・自宅学習による予習、復習を心がける。 ・映像音響処理技術者本試験前に直前対策として、試験前に模擬試験を行う。							
履修に当たっての留意点									

※授業の1単位時間は45分とする

科目名	検定対策Ⅰ	英文名	Certification preparation Ⅰ	1-3
担当者	源・難波・横内	実務経験の有無	無	選択必修 必修 科目区分 専門科目演習
開講期	前期	前期：8時間（回数：15回）	後期：0時間（回数：0回）	授業時数 120時間
教材教具	舞台音響技能検定 過去問題ナビゲーション 舞台機構調整技能士 3級、各種過去問題プリント、実習服、ストップウォッチ			
【学修内容】科目のねらい（目的） 舞台機構調整技能士 3級を取得することを目的とする。（作業試験、判断等試験、学科試験）				
【授業計画】 コマシラバス（前 期）			コマシラバス（後 期）	
1	舞台機構調整技能士 3級対策（学科・判断・作業）導入		1	
2	舞台機構調整技能士 3級対策（学科・判断・作業）使用機材について学ぶ		2	
3	舞台機構調整技能士 3級対策（学科・判断・作業）手順確認		3	
4	舞台機構調整技能士 3級対策（学科・判断・作業）実践を通して流れを学ぶ		4	
5	舞台機構調整技能士 3級対策（学科・判断・作業）実践を通して流れを学ぶ		5	
6	舞台機構調整技能士 3級対策（学科・判断・作業）時間管理を身に付ける		6	
7	舞台機構調整技能士 3級対策（学科・判断・作業）時間管理を身に付ける		7	
8	舞台機構調整技能士 3級対策（学科・判断・作業）音に対する意識を高める		8	
9	舞台機構調整技能士 3級対策（学科・判断・作業）音に対する意識を高める		9	
10	舞台機構調整技能士 3級対策（学科・判断・作業）トラブルシューティング		10	
11	舞台機構調整技能士 3級対策（学科・判断・作業）全体を通しての練習		11	
12	舞台機構調整技能士 3級対策（学科・判断・作業）確認試験 1		12	
13	舞台機構調整技能士 3級対策（学科・判断・作業）確認試験 2		13	
14	舞台機構調整技能士 3級対策（学科・判断・作業）確認試験 3		14	
15	舞台機構調整技能士 3級対策（学科・判断・作業）確認試験 4		15	
授業方法 （授業の進め方）	学科・判断・作業をローテーションしながら総合的に学ぶ。 作業を行わない場合は学科及び判断対策を行う。 学科試験の対策では、繰り返し問題を解いて力を付けていく。			
到達目標	舞台機構調整技能士 3級取得			
成績評価の方法と基準	・評価試験：60% ・出席率：20% ・授業に取り組む姿勢：20% 以上3項目を合計し、評価点を100点法で算出し、60点以上を認定とする。			
授業時間以外に必要な学修	過去問題の予習と復習や作業試験における動きの確認、判断等試験に向けて耳を養うトレーニングなど、繰り返し行う。			
履修に当たっての留意点				

※授業の1単位時間は45分とする

科目名	検定対策Ⅱ	英文名	Certification preparationⅡ	2-2
担当者	源・難波・横内	実務経験の有無	無	選択必修 必修 科目区分 専門科目演習
開講期	通年	前期：4時間（回数：15回）	後期：8時間（回数：15回）	授業時数 180時間
教材 教具	舞台音響技能検定 過去問題ナビゲーション 舞台機構調整技能士 2級、各種過去問題プリント、実習服、ストップウォッチ			
【学修内容】科目のねらい（目的） 舞台機構調整技能士 2級受験レベルの知識と技術習得を目指す。 前期：2級試験レベルで理解すべき、機材理解、音の流れ、システムを理解する。 後期：音量やバランスなど、技術と芸術の両面を養う。				
【授業計画】 コマシラパス（前 期）			コマシラパス（後 期）	
1	4/18	安全講習 テールゲート	1	舞台機構調整技能士 2級対策 全体手順の確認と把握
2	4/25	舞台機構調整技能士 2級対策 導入①	2	舞台機構調整技能士 2級対策 通し練習
3	5/9	舞台機構調整技能士 2級対策 導入②	3	舞台機構調整技能士 2級対策 通し練習
4	5/16	舞台機構調整技能士 2級対策 使用機材を学ぶ	4	舞台機構調整技能士 2級対策 通し試験
5	5/23	舞台機構調整技能士 2級対策 音の流れを知る	5	舞台機構調整技能士 2級対策 通し試験
6	5/30	舞台機構調整技能士 2級対策 前半手順の把握	6	舞台機構調整技能士 2級対策 トラブルシューティング
7	6/6	舞台機構調整技能士 2級対策 前半手順実践練習	7	舞台機構調整技能士 2級対策 楽器のマイキング
8	6/13	舞台機構調整技能士 2級対策 前半手順実践練習	8	舞台機構調整技能士 2級対策 モニター調整
9	6/27	舞台機構調整技能士 2級対策 前半手順試験	9	舞台機構調整技能士 2級対策 通し練習
10	7/4	舞台機構調整技能士 2級対策 前半手順試験	10	舞台機構調整技能士 2級対策 通し試験
11	7/11	舞台機構調整技能士 2級対策 後半手順の把握	11	舞台機構調整技能士 2級対策 音作り
12	7/18	舞台機構調整技能士 2級対策後半手順実践練習	12	舞台機構調整技能士 2級対策 通し試験
13	9/5	舞台機構調整技能士 2級対策 後半手順実践練習	13	舞台機構調整技能士 2級対策 通し試験
14	9/12	舞台機構調整技能士 2級対策 自主練習	14	舞台機構調整技能士 2級対策 通し試験
15	振替：舞台機構調整技能士 2級対策（学科・判断・作業）後半手順試験		15	舞台機構調整技能士 2級対策（学科・判断・作業）通し試験
授業方法 （授業の進め方）	作業、判断、学科をローテーションしながら総合的に学ぶ。 作業を行わない場合は学科及び判断対策を行う。 学科試験の対策では、繰り返し問題を解いて力を付けていく。			
到達目標	それぞれの検定に向け、的確な知識と技術の習得を目指す。 前期：舞台機構調整技能士 2級に求められる、基礎知識を得る。 後期：舞台機構調整技能士 2級受験レベルの技術を身に付け、音を聞きわけける力を養う。			
成績評価の方法と基準	・評価試験：60％ ・出席率：20％ ・授業に取り組む姿勢：20％ 以上3項目を合計し、評価点を100点法で算出し、60点以上を認定とする。			
授業時間以外に必要な学修	過去問題の予習と復習や作業試験における動きの確認、判断等試験に向けて耳を養うトレーニングなど、繰り返し行う。			
履修に当たっての留意点	随時、実技試験を実施する。			

※授業の1単位時間は45分とする

科目名	インターンシップ I		英文名	Internship I					1-4	
担当者	源・難波・横内		実務経験の有無	無	選択必修	必修	科目区分	専門科目 演習		
開講期	通年	前期：4 時間（回数：15 回）		後期：4 時間（回数：15 回）			授業時数	120 時間		
教材 教具	皮手袋、実習服									
【学修内容】科目のねらい（目的） インターンシップを通して、職業の理解や必要とされる知識・技術を学び、深める。 外部機関との連携により、実務的な研修を行う。										
【授業計画】 コマシラバス（前 期）				コマシラバス（後 期）						
1	4 月 17 日安全講習 テールゲート①			1	企業研修					
2	4 月 18 日安全講習 テールゲート②			2	企業研修					
3	ホール見学			3	企業研修					
4	ホール見学			4	企業研修					
5	舞台設営研修			5	企業研修					
6	事前研修（学内）			6	企業研修					
7	スタジオ見学			7	音楽イベント研修					
8	スタジオ見学			8	音楽イベント研修					
9	イベントスタッフ研修			9	音楽イベント研修					
10	イベントスタッフ研修			10	音楽イベント研修					
11	イベントスタッフ研修			11	音楽イベント研修					
12	イベントスタッフ研修			12	音楽イベント研修					
13	イベントスタッフ研修			13	音楽イベント研修					
14	9 月 25 日安全講習 足場組立て			14	音楽イベント研修					
15	9 月 26 日安全講習 フルハーネス			15	音楽イベント研修					
授業方法 （授業の進め方）		外部機関との連携により、舞台に関係する知識・技術の習得、安全教育の講習や 実地研修などを行う。								
到達目標		裏方の仕事を体験し、また実際に芸術に触れることで、職業意識を高める。								
成績評価の 方法と基準		・研修態度 ・出席 ・積極性 ・身だしなみ 以上 4 項目を合計し、評価点を 100 点法で算出し、60 点以上を認定とする。								
授業時間以外に 必要な学修		基本的なコミュニケーション能力及びマナー教育								
履修に当たって の留意点		外部機関との協力によって成り立っている授業であるため、しっかりした意識を持ち、 研修にのぞむ。 日常的に遅刻・欠席（体調不良含む）規則に反する事項がある者は、研修に参加でき ない場合がある。								

※授業の1単位時間は45分とする

科目名	総合演習 I	英文名	General exercises I					1-5	
担当者	源、難波、横内		実務経験の有無	有	選択必修	必修	科目区分	専門科目演習	
開講期	通年	前期：4 時間（回数：15 回）		後期：2 時間（回数：15 回）			授業時数	90 時間	
教材 教具	実習服・皮手袋・筆記用具								
【学修内容】科目のねらい（目的） 一般照明を中心に照明機材の基礎知識を身に付ける。 音響で使用する各機材の基礎知識から、システム構築の基礎など PA の基本を身につける。 カメラ、三脚、スイッチャーと撮影の基礎を身に付ける。									
【授業計画】 コマシラバス（前 期）					コマシラバス（後 期）				
1	4/15 初めての動画制作			1	マイクの種類と特性				
2	4/22 映像用語とその役割			2	楽器のマイク位置による音質変化				
3	5/13 映像実習（カメラ、三脚、その他機器の取り扱い）			3	音響機器の種類・構造・機能				
4	5/20 映像実習（撮影実践）			4	ミキサーへの機器接続の手順				
5	5/27 映像実習（マルチカメラ収録）			5	ミキシング技術及びデザイン				
6	6/3 照明実習（照明機材の名称と役割・備品の使い方）			6	PA と放送				
7	6/10 照明実習（ベース・ハンガーの取付け、吊りこみ作業の実践）			7	ラジオ収録				
8	6/17 照明実習（ベース・ハンガーの取付け、吊りこみ作業の実践）			8	ラジオ収録				
9	6/24 照明実習（回路取り）			9	ラジオ収録				
10	7/1 照明実習（パッチとシュート）			10	ラジオ収録				
11	7/8 照明実習（仕込み図に沿った実践）			11	照明現場の流れについて				
12	7/15 音響実習（機材理解※名称と特徴や役割）/ 仕込図の見方について学ぶ			12	照明現場の流れについて				
13	9/2 音響実習（ステージまわりの仕込みについて）			13	音響現場の流れについて				
14	9/9 音響実習（ステージまわりの仕込みについて）			14	音響現場の流れについて				
15	9/16 確認試験：映像・音響・照明 複合実習			15	確認試験：映像・音響・照明 複合実習				
授業方法 （授業の進め方）		授業では、講義と実習を合わせて行い、講義を受けた後に実践をすることで確実に知識と技術を身につけていく。							
到達目標		映像・音響・照明の基礎知識を確実に身に付け、インターンシップやアルバイトの現場で積極的に動く力を養うことを目指す。							
成績評価の方法と基準		・評価試験：60% ・出席率：20% ・授業に取り組む姿勢：20% 以上 3 項目を合計し、評価点を 100 点法で算出し、60 点以上を認定とする。							
授業時間以外に必要な学修									
履修に当たっての留意点									

※授業の1単位時間は45分とする

科目名	総合演習Ⅱ	英文名	General exercises Ⅱ					2-3
担当者	外部講師：宮脇 成也 大塚 仁己		実務経験の有無	有	選択必修	必修	科目区分	専門科目 演習
開講期	前期	前期：4 時間（回数：15 回）		後期：0 時間（回数：0 回）			授業時数	60 時間
教材 教具	PC、プリント、筆記用具、実習服、皮手袋							
担当者の実務 経験	大塚仁己：舞台照明 / 宮脇成也：デザイン							
【学修内容】科目のねらい（目的） 一般照明の基礎と LED ライト・ムービングライトの知識や技術を幅広く身につける。 また、デザインや静止画（写真）について学び、作品制作の幅を広げる。								
【授業計画】 コマシラバス（前 期）				コマシラバス（後 期）				
1	照明実習 一般照明とDMXについて			1				
2	照明実習 LED 照明の仕組みと基本			2				
3	照明実習 LED 照明実習			3				
4	照明実習ムービングの仕組みと基本			4				
5	照明実習 ムービングライト実習			5				
6	照明実習 ムービングライト実習			6				
7	照明実習 ムービングライト実習			7				
8	照明実習 ムービングライト実習 / デザインについて知る			8				
9	デザイン レタリング、ロゴマーク			9				
10	デザイン レタリング、ロゴマーク			10				
11	デザイン フォント、色彩			11				
12	デザイン フォント、色彩			12				
13	デザイン 構図について学ぶ			13				
14	デザイン 構図について学ぶ			14				
15	デザイン 試写(プレゼンテーション)			15				
授業方法 (授業の進め方)		講義の後、実習を行い、現場で即戦力となるように知識・技術を学ぶ。						
到達目標		照明分野では LED ライト・ムービングライトについて学び、現場により即した知識の習得を目指す。 デザイン分野では、作品制作を行う上で欠かせない、色彩や配置に関する知識を身につけ幅を広げることを目指す。						
成績評価の方法と基準		・評価試験：60％ ・出席率：20％ ・授業に取り組む姿勢：20％ 以上3項目を合計し、評価点を100点法で算出し、60点以上を認定とする。						
授業時間以外に必要な学修		様々な作品や芸術に触れる機会を、増やす。						
履修に当たっての留意点								

※授業の1単位時間は45分とする

科目名	照明	英文名	Lighting					1-6
担当者	野田 幸夫		実務経験の有無	有	選択必修	必修	科目区分	専門科目 演習
開講期	前期	前期： 2 時間（回数：15 回）		後期： 0 時間（回数： 0 回）			授業時数	30 時間
教材 教具	実習服、皮手袋、 舞台・テレビジョン照明＜基礎編＞（2021 改訂版） “舞台・テレビジョン照明技術者（2 級）（改訂版）技能認定試験問題集”							
担当者の 実務経験	野田幸夫：広告代理店、舞台照明							
【学修内容】科目のねらい（目的） 一般照明を中心に舞台と照明の基礎を身につける。								
【授業計画】 コマシラバス（前 期）				コマシラバス（後 期）				
1	照明座学及び演習（舞台機構と照明設備）			1				
2	照明座学及び演習（舞台における照明の仕事）			2				
3	照明座学及び演習（照明機器）			3				
4	照明座学及び演習（照明操作のシステム）			4				
5	照明座学及び演習（照明に関する用語）			5				
6	照明座学及び演習（舞台・美術に関する用語）			6				
7	照明座学及び演習（公演・演出に関する用語）			7				
8	照明座学及び演習（復習）			8				
9	照明実習（西川アイブラザ）舞台と照明備品の説明			9				
10	照明実習（西川アイブラザ）回路取りから点灯まで			10				
11	照明座学 光とカラーフィルター			11				
12	照明座学 光とカラーフィルター			12				
13	照明座学 光とカラーフィルター			13				
14	照明座学 光とカラーフィルター			14				
15	舞台用語と確認問題の実施 / 前期末試験			15				
授業方法 （授業の進め方）		授業では、講義と確認実習を行い、講義を受けた後に実践をすることで確実に知識と技術を身につけていく。						
到達目標		授業では、講義と確認実習を行い、講義を受けた後に実践をすることで確実に知識と技術を身につけていく。						
成績評価の方法と基準		・定期考査試験：60％ ・出席率：20％ ・授業に取り組む姿勢：20％ 以上 3 項目を合計し、評価点を 100 点法で算出し、60 点以上を認定とする。						
授業時間以外に必要な学修		・ホール見学など校外研修に向けた予習・復習。						
履修に当たっての留意点		・ホール見学など校外研修に向けた予習・復習。						

【令和7年度シラバス】

岡山科学技術専門学校

学科名 (映像音響学科)

※授業の1単位時間は45分とする

科目名	舞台制作 I		英文名	Stage Production I				1-7	
担当者	源・難波・横内		実務経験の有無	有	選択必修	必修	科目区分	専門科目 演習	
開講期	後期	前期： 0 時間（回数： 0 回）		後期：8 時間（回数：15 回）			授業時数	120 時間	
教材 教具	実習服、皮手袋、筆記用具								
【学修内容】 科目のねらい（目的） 映像・音響・照明 3 分野がどのようにに関わり舞台がつくられるかを学ぶ。									
【授業計画】 コマシラバス（前 期）				コマシラバス（後 期）					
1				1	TV スタジオ実習 舞台セットを組む				
2				2	TV スタジオ実習 台本確認と機材準備・仕込みの確認				
3				3	TV スタジオ実習 台本に沿ったきっかけ合わせ				
4				4	TV スタジオ実習 仕込みから本番まで通し練習				
5				5	ブライダル演出実習 結婚式の流れを知る/ブライダル演出を学ぶ				
6				6	ブライダル演出実習 流れの確認と機材準備・仕込みの確認				
7				7	ブライダル演出実習 台本に沿ったきっかけ合わせ				
8				8	ブライダル演出実習 仕込みから本番まで通し練習				
9				9	ライブ実習 流れを知る/仕込み図の見方を学ぶ/機材選定				
10				10	ライブ実習 仕込み//チェック/オペレート・撮影について学ぶ				
11				11	ライブ実習 仕込み/チェック/オペレート・撮影について学ぶ				
12				12	ライブ実習 出演者を入れたりハーサル練習				
13				13	復習と確認試験				
14				14	復習と確認試験				
15				15	復習と確認試験				
授業方法 (授業の進め方)		資料を元に説明を行った後、実際に機材に触れ、実習形式で行う。							
到達目標		機材基礎知識の習得、仕込み図の見方など、現場で基礎となる知識を習得する。							
成績評価の方法と基準		・ 評価試験：60％ ・ 出席率：20％ ・ 授業に取り組む姿勢：20％ 以上 3 項目を合計し、評価点を 100 点法で算出し、60 点以上を認定とする。							
授業時間以外に必要な学修									
履修に当たっての留意点									

※授業の1単位時間は45分とする

科目名	舞台制作Ⅱ		英文名	Stage ProductionⅡ				2-4	
担当者	源・難波・横内		実務経験の有無	有	選択必修	必修	科目区分	専門科目 演習	
開講期	前期	前期： 8 時間（回数：15 回）		後期： 0 時間（回数： 0 回）		授業時数	120 時間		
教材 教具	実習服、皮手袋、筆記用具								
【学修内容】 科目のねらい（目的） 実際のイベントを想定して、一つの舞台を創りあげる流れを学ぶ。									
【授業計画】 コマシラバス（前 期）				コマシラバス（後 期）					
1	TVスタジオ実習	企画・準備		1					
2	TVスタジオ実習	準備		2					
3	TVスタジオ実習	リハーサル		3					
4	TVスタジオ実習	本番		4					
5	ブライダル演出実習	企画・準備		5					
6	ブライダル演出実習	準備		6					
7	ブライダル演出実習	リハーサル		7					
8	ブライダル演出実習	本番		8					
9	ライブ実習	企画・準備		9					
10	ライブ実習	準備		10					
11	ライブ実習	リハーサル		11					
12	ライブ実習	本番		12					
13	卒業制作イベント企画	企画/機材選定/仕込み図作成		13					
14	卒業制作イベント企画	仕込み/チェック他/流れ確認		14					
15	卒業制作イベント企画	リハーサル		15					
授業方法 （授業の進め方）		資料を元に説明を行った後、実際に機材に触れ、実習形式で行う。							
到達目標		各種現場での舞台制作の流れを知る。 また、各セクションの関わりを知る。							
成績評価の方法と基準		・ 評価試験：60％ ・ 出席率：20％ ・ 授業に取り組む姿勢：20％ 以上3項目を合計し、評価点を100点法で算出し、60点以上を認定とする。							
授業時間以外に必要な学修									
履修に当たっての留意点									

※授業の1単位時間は45分とする

科目名	D T M		英文名	Desk Top Music				2-5	
担当者	難波 篤史		実務経験の有無	無	選択必修	必修	科目区分	専門科目 実習	
開講期	前期	前期：2 時間（回数：15 回）		後期：0 時間（回数：0 回）			授業時数	30 時間	
教材 教具	パソコン、ソフト“Cubase”、ヘッドフォン、マウス、プリント								
【学修内容】科目のねらい（目的） DTM ソフトを通じてレコーディングの理解を深めると共に、ハードに触れる機会があまりない学生にとってバーチャル空間でのミキシング技術、エフェクター類の理解、また打ち込みによる楽器への理解を深めることを目的とする。									
【授業計画】 コマシラバス（前 期）				コマシラバス（後 期）					
1	4/16 DTMの概要及びソフト画面の見方と説明			1					
2	4/23 初級ミックスダウン①ミックスダウンとは何かを学ぶ～16トラックの素材をミックスする～			2					
3	5/7 初級ミックスダウン②ミックスの基礎フェーダー操作を学ぶ～フェーダーバランスをとる。方向性を練る～			3					
4	5/14 初級ミックスダウン③様々なエフェクターについて学ぶ～好きなグループで鳴るようにコンプをかける～			4					
5	5/21 初級ミックスダウン④ミックスダウン後のマスターリングを学ぶ～パン・リバーブ・ディレイをかけ、トータルコンプで仕上げる～			5					
6	5/28 初級 MIDI データの打ち込み①～MIDIとは何かを知る～			6					
7	6/4 初級 MIDI データの打ち込み②～楽譜の読み方、音楽の基礎知識～			7					
8	6/11 初級 MIDI データの打ち込み③～楽譜に沿って MIDI を打ち込む～			8					
9	6/18 打ち込んだ曲のミックスダウン①			9					
10	6/25 打ち込んだ曲のミックスダウン②			10					
11	7/2 各々の選曲でヒアリング問題を制作する①～音質変化～			11					
12	7/9 各々の選曲でヒアリング問題を制作する②～ノイズ・エフェクト～			12					
13	7/16 各々の選曲でヒアリング問題を制作する③～ミックスバランス①～			13					
14	9/3 各々の選曲でヒアリング問題を制作する③～ミックスバランス②～			14					
15	9/10 授業のまとめ及び定期考査試験			15					
授業方法 （授業の進め方）		パソコンを使い実際に打ち込み・レコーディング・ミックスダウンを進めていく。 学生にはプロジェクターとプリントにより解説をする。							
到達目標		音源の加工、編集、マスターリング、M I D I、基礎的な音楽理論の理解が出来るようになる。							
成績評価の方法と基準		・定期考査試験：60％ ・出席率：20％ ・授業に取り組む姿勢：20％ 以上3項目を合計し、評価点を100点法で算出し、60点以上を認定とする。							
授業時間以外に必要な学修		様々なジャンルの曲を聞いて、どの様にミックスをされているのかを自分なりに考えることがミキシング上達の必須項目となるため、自主的に音楽に触れる機会を持つこと。							
履修に当たっての留意点									

※授業の1単位時間は45分とする

科目名	Photoshop	英文名	Photoshop					2-6	
担当者	平石 明香		実務経験の有無	有	選択必修	必修	科目区分	専門科目 実習	
開講期	通年	前期：2 時間（回数：15 回）		後期：2 時間（回数：15 回）			授業時数	60 時間	
教材 教具	ソフト “Photoshop”、パソコン、 基礎からしっかり学べる Photoshop 最強の教科書 CC 対応 Windows&Mac								
担当者の実務経験	ソフトウェア開発会社で S E、P G。独立後ソフトウェア開発や Web サイトの作成、講師など								
【学修内容】科目のねらい（目的） 画像編集ソフト”Photoshop”の基礎操作を身に付け、写真の編集やデザイン作成に挑戦し、ブライダル関係や広告関連業での就職活動に役立つ力を養う。									
【授業計画】 コマシラバス（前 期）				コマシラバス（後 期）					
1	4/15 オリエンテーション			1	10/1 フィルター				
2	4/22 基本操作、ウィンドウとパネル操作			2	10/8 フィルター				
3	5/13 選択範囲の作成と操作			3	10/15 色とデザインの基本				
4	5/20 選択範囲の作成と操作			4	10/22 色とデザインの基本				
5	5/27 選択範囲の作成と操作			5	10/29 DM スケッチ				
6	6/3 選択範囲の作成と操作			6	11/5 DM 制作				
7	6/10 レイヤー操作			7	11/12 DM 制作				
8	6/17 レイヤー操作			8	11/19 DM 制作				
9	6/24 レイヤー操作			9	11/26 DM 制作、制作作品の発表と投票				
10	7/1 テキスト、シェイプレイヤー			10	12/3 作品紹介カード作成				
11	7/8 テキスト、シェイプレイヤー			11	12/10 作品紹介カード作成				
12	7/15 確認テスト＋カラーの設定、描画、レタッチ			12	12/17 作品紹介カード作成				
13	9/2 カラーの設定、描画、レタッチ			13	1/14 作品紹介カード作成				
14	9/9 カラーの設定、描画、レタッチ			14	1/21 作品紹介カード作成と提出				
15	9/16 前期復習（課題）・前期試験			15	1/28 前期後期復習・学年末試験				
授業方法 （授業の進め方）		データで配布された素材を元に、各自が PC 上で実際に作業を行い進めていく							
到達目標		CG ソフトの基本操作を学び、写真や画像の編集ができるようになることを目標とする。卒業制作の DM と作品紹介カードのデザインをする。							
成績評価の方法と基準		・定期考査試験：60％ ・出席率：20％ ・課題提出（授業中に作成したものを含む）及び授業姿勢：20％ 以上 3 項目を合計し、評価点を 100 点法で算出し、60 点以上を認定とする。							
授業時間以外に必要な学修		授業以外での作品制作が必要な場合もある。							
履修に当たっての留意点									

※授業の1単位時間は45分とする

科目名	編集 I	英文名	Editing I					1-8	
担当者	浅沼 範行		実務経験 の有無	有	選択 必修	必修	科目 区分	専門科目 実習	
開講期	通年	前期： 2 時間（回数：15 回）		後期 0 時間（回数：0 回）			授業時数	30 時間	
教材 教具	一気にビギナー卒業！ 動画でわかる After Effects 教室 パソコン、ソフト『After Effect』、ヘッドフォン、マウス								
担当者 の実務 経験	音響、映像制作								
【学修内容】科目のねらい（目的） 映像業界で使用頻度の高いソフト“After Effect”の技術習得が必須となるため、その活用能力を身につける。一年次には基礎知識を理解し、簡単な映像作品を制作し基礎技術を習得する。									
【授業計画】 コマシラバス（前 期）					コマシラバス（後 期）				
1	After Effects インターフェース説明			1					
2	After Effects 基本操作①			2					
3	After Effects 基本操作②			3					
4	After Effects 基本操作③			4					
5	After Effects 基本アニメーション①			5					
6	After Effects 基本アニメーション②			6					
7	After Effects 基本アニメーション③			7					
8	After Effects 基本アニメーション④			8					
9	After Effects 基本アニメーション⑤			9					
10	After Effects 基本アニメーション⑥			10					
11	After Effects 基本アニメーション⑦			11					
12	After Effects 基本アニメーション⑧			12					
13	After Effects 基本アニメーション⑨			13					
14	After Effects 基本アニメーション⑩			14					
15	After Effects 基本アニメーション⑪			15					
+前期期末試験									
授業方法 (授業の進め方)		プロジェクターを使用し、教員の指示に合わせて各自がPCで作業を進めていく。 また確認として課題の作成及び提出を行い、理解度をはかる。 クラウドサービスを使い質問などを受け付けながら進める。							
到達目標		動画編集、CG アニメーションを理解し、幅広く映像業界で役立つ技術の習得を目標とする。動画編集の基本操作ができるようにする。							
成績評価の 方法と基準		・定期考査試験及び課題提出：60% ・出席率：20% ・授業に取り組む姿勢：20% 以上3項目を合計し、評価点を100点法で算出し、60点以上を認定とする。							
授業時間以外 に必要な学修		自宅学習で授業の復習をして、ソフトウェアの操作が身につくよう心掛ける。							
履修に当たっ ての留意点		PC は AfterEffects の推奨仕様スペック以上を使用する。							

※授業の1単位時間は45分とする

科目名	編集Ⅱ	英文名	Editing Ⅱ					2-7	
担当者	浅沼 範行		実務経験の有無	有	選択必修	必修	科目区分	専門科目 実習	
開講期	通年	前期：4 時間（回数：15 回）		後期：4 時間（回数：15 回）			授業時数	120 時間	
教材 教具	パソコン、AfterEffects、Premiere、ヘッドフォン、マウス								
担当者の実務 経験	音響、映像制作								
【学修内容】科目のねらい（目的） 将来映像業界で活用できる能力を身に付ける。 二年次には、一年次に学んだ技術と知識を応用し、さらに発展した技術を使いオリジナルの映像作品を制作する。									
【授業計画】 コマシラバス（前 期）					コマシラバス（後 期）				
1	4/14 AfterEffects 昨年度の復習			1	10/7 AfterEffects エフェクトを使う				
2	4/21 AfterEffects 3D アニメーション			2	10/14 AfterEffects エフェクトを使う				
3	4/28 AfterEffects 3D アニメーション			3	10/21 AfterEffects エフェクトを使う				
4	5/12 AfterEffects 3D アニメーション			4	10/28 AfterEffects エフェクトを使う				
5	5/19 AfterEffects 3D アニメーション			5	11/11 AfterEffects エフェクトを使う				
6	5/26 AfterEffects 3D アニメーション			6	11/18 AfterEffects エフェクトを使う				
7	6/2 AfterEffects 3D アニメーション			7	11/25 AfterEffects エフェクトを使う				
8	6/9 AfterEffects 3D アニメーション			8	12/2 AfterEffects エフェクトを使う				
9	6/16 AfterEffects 3D アニメーション			9	12/9 AfterEffects エフェクトを使う				
10	6/23 AfterEffects 3D アニメーション			10	12/16 photoshop との連携				
11	6/30 AfterEffects 3D アニメーション			11	1/13 photoshop との連携				
12	7/7 AfterEffects 3D アニメーション			12	1/20 photoshop との連携				
13	7/14 AfterEffects 3D アニメーション			13	1/27 photoshop との連携				
14	9/1 AfterEffects 3D アニメーション			14	2/3 photoshop との連携				
15	9/8 前期期末試験			15	振替 学年末試験				
授業方法 (授業の進め方)		教員の指示に合わせて各自がPCで作業を進めていく。また確認として、課題制作及び提出により理解度をはかる。 クラウドサービスを使い、質問などを受け付けながら進める。							
到達目標		動画編集、3D アニメーションを理解し、幅広く映像業界で役立つ技術の習得を目標とする。繰り返し作品制作を行うことでCG制作に慣れ確実に使用方法を習得する。表現したい技術を探求して、オリジナル作品を作成する。							
成績評価の方法と基準		・定期考査試験及び課題提出：60% ・出席率：20% ・授業に取り組む姿勢：20% 以上3項目を合計し、評価点を100点法で算出し、60点以上を認定とする。							
授業時間以外に必要な学修		自宅学習で授業の復習をして、ソフトウェアの操作が身につくよう心掛ける。							
履修に当たっての留意点									

※授業の1単位時間は45分とする

科目名	電気工事士（実技）	英文名	Electrician（practical）					1-9
担当者	信平・秋山・難波	実務経験の有無	有	選択必修	必修	科目区分	専門科目実習	
開講期	後期	前期： 0 時間（回数：0 回）	後期： 12 時間（回数：10 回）			授業時数	120 時間	
教材 教具	第二種電気工事士技能試験公表問題の合格解答集、工具セット							
担当者の実務経験	秋山 俊朗：電設資材卸販売会社（営業）3 年 5 ケ月、電気工事会社（施工及び施工管理）3 年 7 ケ月 県立工業高等学校（電気科教諭）33 年 信平 幸一：県立工業高等学校（電気科教諭） 難波 篤史：実務経験なし							
【学修内容】科目のねらい（目的） 第二種電気工事士の技能試験に合格するために必要な知識と技術の習得								
【授業計画】 コマシラバス（前 期）			コマシラバス（後 期）					
1			1	第二種電気工事士筆記試験の答練と解説				
2			2	第二種電気工事士筆記試験の答練と解説				
3			3	第二種電気工事士筆記試験の答練と解説				
4			4	技能試験の基本作業				
5			5	候補問題による電気工事実習				
6			6	候補問題による電気工事実習				
7			7	候補問題による電気工事実習				
8			8	候補問題による電気工事実習				
9			9	候補問題による電気工事実習				
10			10	候補問題による電気工事実習				
11			11	※技能試験日以降授業無し				
12			12					
13			13					
14			14					
15			15					
授業方法 （授業の進め方）	技能試験対策として、候補問題により電気工事実習を行う。							
到達目標	第二種電気工事士(下期)の技能試験に合格する。							
成績評価の方法と基準	・評価試験：60％ ・出席率：20％ ・授業に取り組む姿勢：20％ 以上 3 項目を合計し、評価点を 100 点法で算出し、60 点以上を認定とする。							
授業時間以外に必要な学修	過去問題及び、配線図の自宅学習							
履修に当たっての留意点	国家資格合格を目指して積極的に取り組むよう指導する。							

※授業の1単位時間は45分とする

科目名	映像制作 I	英文名	Video production I					1-10
担当者	源・難波・横内		実務経験の有無	有	選択必修	必修	科目区分	専門科目 実習
開講期	後期	前期： 0 時間（回数： 0 回）	後期： 4 時間（回数： 15 回）				授業時数	60 時間
教材 教具	PC、筆記用具、実習服							
【学修内容】 科目のねらい（目的） ドキュメンタリー作品制作を通じて、企画・構成・絵コンテ・ロケハン・録音・撮影・編集といった映像制作の流れを学ぶ。								
【授業計画】			コマシラバス（前 期）			コマシラバス（後 期）		
1			1	10/2	企画とは ※外部講師による授業			
2			2	10/9	構成とは ※外部講師による授業			
3			3	10/16	シナリオ作成 ※外部講師による授業			
4			4	10/23	シナリオ作成			
5			5	10/30	シナリオ作成			
6			6	11/6	絵コンテ作成 ※外部講師による授業			
7			7	11/13	ロケハン			
8			8	11/20	撮影			
9			9	11/27	撮影			
10			10	12/4	録音/撮影予備日			
11			11	12/11	編集			
12			12	12/18	編集			
13			13	1/8	編集			
14			14	1/15	予備日（発表準備含む）			
15			15	1/22	試写会			
授業方法 (授業の進め方)		実習の前に外部講師による指導を踏まえて、作品制作を行う。						
到達目標		作品が完成するまでの一連の流れを学ぶ。ドキュメンタリー作品を 1 作品完成させる。						
成績評価の方法と基準		・作品評価：60% ・出席率：20% ・授業に取り組む姿勢：20% 以上 3 項目を合計し、評価点を 100 点法で算出し、60 点以上を認定とする。						
授業時間以外に必要な学修		授業時間内だけではおさまらない制作部分を授業時間外でとりくみ、締切日に合わせて作品を制作する。						
履修に当たっての留意点		決められた締切日に作品が提出されない場合は、単位不認定となる。						

※授業の1単位時間は45分とする

科目名	映像制作Ⅱ	英文名	Video production II					2-8	
担当者	源・横内・外部講師		実務経験の有無	有	選択必修	必修	科目区分	専門科目 実習	
開講期	前期	前期：2時間（回数：15回）		後期：0時間（回数：0回）			授業時数	30時間	
教材 教具	PC、筆記用具、実習服								
【学修内容】科目のねらい（目的） SNS 動画制作を学ぶ。作品制作を通じて、企画・構成・絵コンテ・ロケハン・録音・撮影・編集といった一連の流れを学ぶ。									
【授業計画】 コマシラバス（前 期）				コマシラバス（後 期）					
1	4/15 SNS 概要と現在のトレンド。目的を明確にして利用する			1					
2	4/22 SNS を活用した Web マーケティングについての基礎理解			2					
3	5/13 適切なコンテンツの作り方			3					
4	5/20 ショート動画制作①			4					
5	5/27 プレゼン&試写①			5					
6	6/3 ショート動画制作②			6					
7	6/10 プレゼン&試写②			7					
8	6/17 ショート動画制作③			8					
9	6/24 プレゼン&試写③			9					
10	7/1 ショート動画制作④			10					
11	7/8 プレゼン&試写④			11					
12	7/15 ショート動画制作⑤			12					
13	9/2 プレゼン&試写⑤			13					
14	9/9 ショート動画制作⑥			14					
15	9/16 プレゼン&試写⑥			15					
授業方法 (授業の進め方)		SNS に特化した専門の講師による事前指導を踏まえて、作品の制作を実際に行う。							
到達目標		SNS 動画が完成するまでの一連の流れを学ぶ。							
成績評価の方法と基準		・作品評価：60% ・出席率：20% ・授業に取り組む姿勢：20% 以上3項目を合計し、評価点を100点法で算出し、60点以上を認定とする。							
授業時間以外に必要な学修		授業時間内だけではおさまらない制作部分を授業時間外でとりくみ、締切日に合わせて作品を制作する。							
履修に当たっての留意点		決められた締切日に作品が提出されない場合は、単位不認定となる。							

【令和7年度シラバス】

岡山科学技術専門学校

学科名 (映像音響 学科)

※授業の1単位時間は45分とする

科目名	卒業制作	英文名	Graduation production					2-9
担当者	源・難波・横内		実務経験の有無	無	選択必修	必修	科目区分	専門科目 実習
開講期	後期	前期：0 時間（回数：0 回）		後期：12 時間（回数：15 回）			授業時数	180 時間
教材 教具	パソコン、AfterEffect、Premire、Photoshop、Cubase、プリント							
【学修内容】 科目のねらい（目的） 作品制作を通じ、撮影技術と編集技術を習得する。								
【授業計画】 コマシラバス（前 期）				コマシラバス（後 期）				
1				1	概要説明、資料配布			
2				2	作品制作（カット割）			
3				3	作品制作（撮影スケジュール・ロケハン）			
4				4	作品制作（撮影）			
5				5	作品制作（撮影）			
6				6	作品制作（編集）			
7				7	作品制作（編集）			
8				8	完成作品の視聴及び修正（追加撮影及び編集）			
9				9	完成作品の視聴及び修正（追加撮影及び編集）			
10				10	完成作品の視聴及び修正（追加撮影及び編集）			
11				11	完成作品の視聴及び修正（追加撮影及び編集）			
12				12	最終調整及び完成作品の視聴、微調整			
13				13	最終調整及び完成作品の視聴、微調整			
14				14	最終調整及び完成作品の視聴、微調整			
15				15	最終調整及び完成作品の視聴、微調整			
授業方法 （授業の進め方）		卒業制作では、編集の授業で習得したソフトの技術を活かして個人制作を行う。冬期休暇に入る前に、各自の作品を視聴し、調整・修正箇所を共有し、さらに完成度を高めるべく、調整を繰り返しながら作品完成を目指していく。						
到達目標		授業で学んだソフトを活かして作品を完成させる。 卒業制作発表会にて、各自の作品を上映する。						
成績評価の方法と基準		授業態度点、作品評価点、出席点 以上の項目を合計し、評価点を 100 点法で算出し、60 点以上を認定とする。 ※中間提出、最終提出など決められた期限内に提出できない場合は不認定（D 評価）となる。						
授業時間以外に必要な学修		AfterEffect、Premire、Photoshop、Cubase に触れる時間を自宅で持ち、自ら理解を深めるよう心掛ける。各自が必要なことを、自らの意思でメモにとる習慣をつける必要がある。						
履修に当たっての留意点		欠席が多い場合は、授業評価に大きな影響が出るため注意すること。						

※授業の1単位時間は45分とする

科目名	ビジネス教養	英文名	Business Skills					1-11	
担当者	源・横内		実務経験の有無	無	選択必修	必修	科目区分	一般科目	
開講期	通年	前期：1時間（回数：15回）		後期：1時間（回数：15回）			授業時数	30時間	
教材 教具	2026年度版 ドリル式 一般常識問題集								
【学修内容】 科目のねらい（目的） 就職試験に向けた一般常識問題を実践で学ぶ。 就職に必要なとなるビジネスマナーの習得									
【授業計画】 コマシラバス（前期）					コマシラバス（後期）				
1	4/18	問題集『日本国憲法と基本的人権』			1	10/3	問題集『式の基本公式』		
2	4/18	問題集『漢字の読み・書き』			2	10/3	問題集『方程式・不等式』		
3	5/9	インターンシップ事前研修①			3	10/24	就職対策①		
4	5/23	問題集『国会の仕組み・内閣』			4	11/7	問題集『平面図形・空間図形』		
5	5/23	問題集『類義語・対義語』			5	11/7	問題集『文章題「濃度・速さ」』		
6	6/6	インターンシップ事前研修②			6	11/21	就職対策②		
7	6/27	問題集『選挙制度・政党』			7	12/12	1V スタートアップセミナー（進路課）		
8	6/27	問題集『四字熟語』			8	12/19	問題集『日本地理』		
9	7/11	インターンシップ事前研修③			9	12/19	復習		
10	9/5	復習			10	1/16	就職対策③		
11	9/5	前期末試験			11	1/30	復習		
12	振替 9/12	1V 講演会（学生支援会）			12	1/30	学年末試験		
授業方法 （授業の進め方）		一般常識問題集を使用し、小テスト形式で問題に挑戦していく。また、ビジネスマナーは実践を交えながら実施していく。							
到達目標		就職試験に向け基礎学力、ビジネスマナー力を身に付ける。							
成績評価の方法と基準		・定期考査試験：60％ ・出席率：20％ ・授業に取り組む姿勢：20％ 以上3項目を合計し、評価点を100点法で算出し、60点以上を認定とする。 ※定期考査にて59点以下の場合または欠席率が30％を超えた場合は、不認定（D評価）となる。							
授業時間以外に必要な学修		授業予定にあわせて、練習問題の反復による予習・復習を心掛けること 授業で行った問題の復習を自宅で行い、確実な習得を目指すこと。							
履修に当たっての留意点		授業中に実施する小テストの点、課題提出、出席点を評価に反映させる。							

※授業の1単位時間は45分とする

科目名	一般教養	英文名	Liberal Arts					2-10	
担当者	難波・横内		実務経験の有無	無	選択必修	必修	科目区分	一般科目	
開講期	通年	前期：1 時間（回数：15 回）		後期：1 時間（回数：15 回）			授業時数	30 時間	
教材 教具	2025 年度版 ドリル式 一般常識問題集, 2025 年度版 ドリル式 SPI 問題集								
【学修内容】科目のねらい（目的） 就職試験で出題頻度の高い、SPI と一般常識問題に繰り返し触れることで、試験問題に慣れることを目的とする。 ワークを通して就職活動のマナーやルールを身に付け、実践に繋げる。									
【授業計画】 コマシラバス（前 期）					コマシラバス（後 期）				
1	4/16	一般教養問題集・就活について			1	10/2	学園祭準備		
2	4/23	一般教養問題集・就活について			2	10/9	学園祭準備		
3	5/7	一般教養問題集・就活について			3	10/16	学園祭準備		
4	5/14	一般教養問題集・就活について			4	10/23	学園祭準備		
5	5/21	一般教養問題集・就活について			5	10/30	学園祭準備		
6	5/28	一般教養問題集・就活について			6	11/6	SPI 問題集・ビジネスマナーについて		
7	6/4	一般教養問題集・体育祭について			7	11/13	SPI 問題集・ビジネスマナーについて		
8	6/11	一般教養問題集・就活について			8	11/20	ビジネスマナーについて		
9	6/18	一般教養問題集・就活について			9	11/27	ビジネスマナーについて		
10	6/25	一般教養問題集・就活について			10	12/4	ビジネスマナーについて		
11	7/2	一般教養問題集・就活について			11	12/11	受験報告		
12	7/9	SPI 問題集・学園祭について			12	12/18	学年末試験		
13	7/16	SPI 問題集・夏季休暇について			13	1/8	社会人としての心構え		
14	9/3	定期試験について			14	1/15	社会人としての心構え		
15	9/10	後期について・前期末試験			15	1/22	社会人としての心構え		
授業方法 (授業の進め方)	問題集を使い、定期的に確認試験を実施する。 就職活動についてはワークを交えて繰り返し学ぶ。								
到達目標	就職試験で必要となる SPI と一般常識問題に触れ問題の出題形式に慣れる。 ワークを通じて、就職活動マナーを身に付ける。								
成績評価の方法と基準	・定期考査試験：60％ ・出席率：20％ ・授業に取り組む姿勢：20％ 以上 3 項目を合計し、評価点を 100 点法で算出し、60 点以上を認定とする。 ※定期考査にて 59 点以下の場合または欠席率が 30％を超えた場合は、不認定 (D 評価) となる。								
授業時間以外に必要な学修	問題の予習を自宅で行い、確実な習得を目指すこと。								
履修に当たっての留意点	授業中に実施する小テストの点、及び出席点を評価に反映させる。								